



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

トルコ：イスラーム国への対応を巡る反政府デモの発生

トルコに隣接するシリア側の国境地域アイン・アラブ（クルド語 Kobanê/Kobanî）に「イスラーム国（IS）」が侵攻、10月6日に一部が制圧された。同地域では約3週間にわたってISとクルド系住民との間で激しい戦闘が行われていたが、一部がISに制圧されたことで、トルコ国内でISに対する脅威が増大し、大きな懸念事項となっている。

トルコ政府のIS支援に対する不満や、クルド系避難民への不十分な支援策に対する批判が噴出、10月7日からクルド系トルコ人を中心にトルコ各地で大規模な反政府デモが発生した。このデモにより、9日時点で少なくとも22名が死亡、数十名が負傷した。特にクルド系住民が多いディヤルバクルなど南東部の都市で、デモが激化しており、トルコ軍も出動するなどして抗議運動の鎮圧に動いているが混乱は収まらず、8日には夜間外出禁止令が発令された。9日に南東部のガズィアンテプで発生した大規模な抗議デモによって、15歳と16歳の少年2名を含む4人が死亡、警察官を含む20名以上の負傷者が出ている。これによって10日現在の死者数は29名となった。

アイン・アラブ周辺地域からは難民が続々とトルコ側に避難しており、トルコ国内の一層の混乱も予想される。また、クルド連帯を示す平和集会在クルド系ではないトルコ人からの支持・参加も獲得しつつ、トルコ各地で開催されている。

評価

エルドアン大統領は7日の記者会見で、米国を中心とする有志連合軍に、空爆だけでは不十分であると発言し、地上作戦も行うべきとの見方を示した。米国も空爆だけで完全にISを国境付近から後退させることは難しいとして、ケリー国務長官からダヴトオール首相に対し、トルコ軍に地上作戦に参加するよう呼びかけている。エルドアン大統領は軍を出動させるかについて現時点で明言していないが、トルコにとっては、ISの脅威が日々増大しており、早急に次の軍事作戦を行いたいとの思惑がある。しかしながら、地上作戦に踏み切れば、トルコ側にも多数の犠牲者を伴う事が予想され、トルコ政府は困難な選択を強いられている。

一方でエルドアン大統領は、2011年以來のシリア紛争でアサド政権打倒を公言し、反政府勢力を支援している。このため、トルコ・シリア両政府は絶縁状態である。エルドアン大統領は今回の軍事作戦によってISだけでなくアサド政権の打倒をも視野に入れていると考えられるが、トルコ経由でシリアに入国するISの外国人戦闘員が後を絶たず、トルコの国境管理も重要な課題となろう。

今回の事件は、エルドアン大統領が就任後、最初に直面する試練と言える。大規模な反政府デモといえば、2013年6月にイスタンブールの再開発問題をきっかけに政府の対応を巡って発生したデモが記憶に新しいが、今回もクルド系住民がマジョリティを占める南東部のみならず、アンカラ、イスタンブール、イズミル等の西部の主要都市でも反政府デモが起こっている。クル

ド人との和平交渉を進展させようとしている矢先の出来事であるだけに、対応を誤れば磐石だと思われたエルドアン大統領自身の地位が揺らぐ恐れもある。

(金子研究員)